

★学校教育目標 みずから学び真の学力をつけよう、豊かな心もちみんなと協力しよう、からだをきたえ健全な心身をつくろう		★重点計画の概要 学校リニューアルプロジェクト(子供たちがつくる学校プロジェクト)を掲げ、以下の2点を重点計画とする。 ①郷土を愛し、郷土に生きる生徒としての自覚を育み、人も自分も大切にしながら、人の役に立つことの喜びを知る「心豊かな生徒の育成」を目指し、道徳授業の充実、地域をステージにした特別活動の充実を図り、道徳的実践力や協働して課題解決をする力の育成を推進する。また、安心安全な学校づくりのため、災害教育といじめ防止を組織的に推進する。 ②学ぶ姿勢づくりを基本に、ICTを活用した授業の実施や日野スタンダードに基づくUD化された授業の構築を進め、分かりやすい授業を展開し思考力、判断力、表現力を高め、話し合い活動を取り入れ、学力の向上を目指す。	
★目指す学校像(ビジョン) 【目指す児童・生徒像】 ①自ら学び、考え、生き生きと活動し、表現できる生徒 ②豊かな心を持ち、自他を尊重する生徒 ③自らを鍛え、粘り強く課題解決を図る意欲を持ち、心身ともに健康な生活ができる生徒 【目指す学校像】 ①生徒一人ひとりが大切にされ、よさが伸ばされ、いかされる学校 ②生徒同士、生徒と教職員が相互に信頼する温かい学校 【目指す教師像】 ①生徒理解に基づいた教育活動を推進し、共感的理解と適切な指導ができる教師 ②研修意欲と実践力のある教師			

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	豊かな心の育成	○人権教育・道徳教育の一層の充実を図り、思いやりのある豊かな心を育成する。	①人権教育や道徳教育を通して、心の教育の充実を図り、人それぞれの個性の違いや多様性を認め合う心を育成する。 ②「いのちの授業」を実施し、いのちの大切さについて考える時間にする。 ③がん教育やSOSの出し方に関する教育を実施する。	2	4 95%以上の教員が、思いやりのある心を育成することができた 3 90%以上の教員が、思いやりのある心を育成することができた 2 85%以上の教員が、思いやりのある心を育成することができた 1 思いやりのある心を育成することができた教員が85%未満	3	4 生徒アンケートで、95%以上が思いやりの気持ちを養ったことができたと思えた 3 生徒アンケートで、90%以上が思いやりの気持ちを養ったことができたと思えた 2 生徒アンケートで、85%以上が思いやりの気持ちを養ったことができたと思えた 1 生徒アンケートで、思いやりの気持ちを養ったことができた生徒が85%未満	・心の成長期でもある中学生には年代に合った内容の授業を続けてほしい。命、病氣、コミュニケーション、多様性を認めあう授業の実施を望みます。 ・生徒さんの考えや反応に関心があるので、「いのちの授業」を見学させて欲しい。	教員の取組と生徒の指標がほぼ同じ数値であったが、生徒の方が若干高い数値であった。生徒がこれらのことに関心があり、主体的に考えることができていると考えられるので継続していききたい。 本校SCによる「SOSの出し方研修」では、自分の心を大切にすること、ストレスの対処法等を学んだ。
	充実した学校生活の推進	○生徒一人一人が、充実して学校生活が送れるような環境を構築する。	①毎月実施する生活状況調査を活用し、生徒の学校生活の様子を把握するとともに、いじめ防止等に取り組む。 ②夏休みの1年生家庭訪問や2・3年生三者面談を実施することで、生徒理解に努め、家庭環境も把握する。 ③学校行事、生徒会活動、部活動を通して、生徒が主体的に取り組める体制を構築する。	3	4 95%の学級が計画通り実施できた 3 90%以上の学級が計画通り実施できた 2 85%以上の学級が計画通り実施できた 1 計画通り実施した学級が85%未満	1	4 生徒アンケートで、95%以上の生徒が充実した学校生活を送れた 3 生徒アンケートで、90%以上の生徒が充実した学校生活を送れた 2 生徒アンケートで、85%以上の生徒が充実した学校生活を送れた 1 生徒アンケートで、充実した学校生活を送れたと思えた生徒が85%未満	・家庭環境を把握するのは必要だと思う。 ・生徒一人一人との面談をとおして生徒の悩みを把握することが重要であると考ええる。 ・生徒が悩みなどを話せる環境づくりが大切であるため、教職員が心に余裕をもてるような環境づくりも必要である。	教員の取組指標と生徒の成果指標では、生徒の指標が低い結果となった。校内においては生活状況調査の実施などいじめ未然防止等の取組は行っているが、家庭内でのSNS等での生徒間のトラブルには、学校が防ぐことのできない面もある。ご意見にもあるように、生徒一人一人の小さな変化を見逃さないように努めていく。
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	登校支援の推進と特別支援教育の充実	○登校支援事業として、チャレンジクラス、がんばルームの運営を推進する。 ○支援を必要とする生徒を把握し、個に応じた教育を進めるとともに、特別支援教育の視点に立った教育のユニバーサルデザイン化を推進する。	①全教職員が登校支援に主体的にかかわり、生徒への支援の充実を図る。 ②教育相談部会を毎週開催し、生徒の実態を共通理解し、共通実践を図る。特別支援教育コーディネーターとSC、発達臨床心理士、SSW等の連携により、家庭・地域との相談・支援体制を構築する。専門家(巡回相談等)の見立てを指導に生かすよう一般化に努める。 ③特別支援教室、リソースルームとの連携を図る。	3	4 95%以上の教員が、特別支援教育の視点に立ち、教育活動に取り組みできた 3 90%以上の教員が、特別支援教育の視点に立ち、教育活動に取り組みできた 2 85%以上の教員が、特別支援教育の視点に立ち、教育活動に取り組みできた 1 特別支援教育の視点に立ち、教育活動に取り組みできた教員が85%未満	1	4 生徒アンケートで、95%以上の生徒が心細く感じない指導を受けた 3 生徒アンケートで、90%以上の生徒が心細く感じない指導を受けた 2 生徒アンケートで、85%以上の生徒が心細く感じない指導を受けた 1 生徒アンケートで、心細く感じない指導を受けたことができた生徒が85%未満	・登校支援の取り組みは重要であるが教員に負担をかけすぎるのはよくない。地域、ボランティア、専門医などと連携する組織づくりも重要ではないか。 ・チャレンジクラス、がんばルームの存続を希望します。	教員の取組指標と生徒の成果指標では、生徒の指標が低い結果となった。チャレンジクラスの運営に関しては、方向性がはっきりしたので来年度の運営に生かす。がんばルームに関しては対象生徒、方針、ルール等をもう一度精査し、チャレンジクラスとの棲み分けを行い、全教員が負担過多にならなく関われる運営を目指す。
	一人1台の学習者用端末やICT機器を活用した授業	○全ての生徒に対して、分かる授業を実践し、学力の向上を推進する。 ○主体的・対話的で深い学びの構築	①学習規律を確立し、生徒一人一人の学力向上を図る。 ②クロームブック(ICT等)を活用した授業を実践する。 ③ユニバーサルデザインの視点に立った指導方法の工夫・改善を目指す。	2	4 95%以上の教員が、授業改善を実施し、成果を確認できた 3 90%以上の教員が、授業改善を実施し、成果を確認できた 2 85%以上の教員が、授業改善を実施し、成果を確認できた 1 授業改善を実施し、成果を確認できた教員が85%未満	3	4 生徒アンケートで、95%以上の生徒が「授業は分かりやすい」と思えた 3 生徒アンケートで、90%以上の生徒が「授業は分かりやすい」と思えた 2 生徒アンケートで、85%以上の生徒が「授業は分かりやすい」と思えた 1 生徒アンケートで、「授業は分かりやすい」と思えた生徒が85%未満	・クロムブックを活用する授業はかなり充実していると思われる、授業内容について興味が湧いてわくわくするような授業を心がけてほしい。 ・教員間に学力に差が生じないよう情報共有、連携が大切であると考ええる。 ・ICT機器の活用で学力向上は見込めない。教育の基本軸にすべきは生徒たちが自主的に目標を持つことにあると考ええる。	評価から教員の取組以上に生徒の意識が高いことが分かる。生徒が主体的に学習に取り組むことができるようなICTの活用を目指す。その結果、生徒が授業をつくる、教員が伴走する形をつくり、ICTをそのためのツールとして活用できるようにしていく。
社会と未来にいき、みんなをつくる	家庭・地域との連携	○地域との交流を図り、地域に根差した教育を推進する。	①学校公開を毎学期実施し、地域の方々や保護者に学校の様子を公開していく。 ②学校・学年便り、WEBページ等を活用し、生徒の活躍など情報発信を図る。 ③青少年地区育成会等の地域行事にできるだけ多くの生徒を参加させる。 ④ちよこっとボランティア活動を実施し、地域との関わりの中で、生徒に自己肯定感を持たせる機会とする。	1	4 95%以上の教員が、ボランティア活動を通じた、教育活動に取り組みできた 3 90%以上の教員が、ボランティア活動を通じた、教育活動に取り組みできた 2 85%以上の教員が、ボランティア活動を通じた、教育活動に取り組みできた 1 ボランティア活動を通じた、教育活動に取り組みできた教員が85%未満	1	4 生徒アンケートで、95%以上が「人の役に立つことができた」と思えた 3 生徒アンケートで、90%以上が「人の役に立つことができた」と思えた 2 生徒アンケートで、85%以上が「人の役に立つことができた」と思えた 1 生徒アンケートで、「人の役に立つことができた」と思えた生徒が85%未満	・地域の行事に参加することの大切さを学ぶ方法は先生が生徒に教えるのではなく、生徒同士のディスカッションや意見交換の場を設け結果を発表させる、ボランティア活動を含めたアクティブラーニングを実行するなど生徒が主体的に考える力を養うことが重要。 ・職場体験学習は貴重な経験になっていると思う。	教員、生徒共に指標の値が低い。全校生徒が行う「ちよこっとボランティア」はすばらしい取組であるので、現行どおり全員参加を基本としつつ、生徒が主体的に取り組んでいるという意識をもてるような取組を行う。
	防災、防犯・安全に関する教育の推進	○火災・地震・不審者対応など、非常事態の対応について、生徒自らの判断で行動することが出来る能力を育成する。	①様々な場面を想定した避難訓練を実施し、臨機応変に行動できる力を身に付けさせる。 ②自然災害について学習し、地震以外の災害対策についても学習を深める。 ③集団で下校するような事態にも対応する心構え等を身に付けさせる。	2	4 95%以上の教員が、防災教育の成果を確認できた 3 90%以上の教員が、防災教育の成果を確認できた 2 85%以上の教員が、防災教育の成果を確認できた 1 防災教育の成果を確認できた教員が85%未満	3	4 生徒アンケートで、95%以上が「防災教育を学習できた」と思えた 3 生徒アンケートで、90%以上が「防災教育を学習できた」と思えた 2 生徒アンケートで、85%以上が「防災教育を学習できた」と思えた 1 生徒アンケートで、「防災教育を学習できた」と思えた生徒が85%未満	・災害対策学習は繰り返し行うことが重要と考えます。 ・自ら判断し行動できる力は社会に出てから重要であるため学校で実践する機会を設けてほしい。	安全指導に関しては、教員、生徒共に高い数値となった。引き続き様々なことを想定した避難訓練、安全指導を実施していきたい。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。